

▼今月の「ポピー」の国語で学習するおもな内容と大切なことがあります。

□の数字は、教科書のページ数です。

2年 町で見つけたことを話そう □ 32~38

発表の声の大きさや、話す速さにも気をつけようね。



〈おわり〉自分が思つたことを言う。

- ・聞く人が分かりやすいように、まとまりごとに話す。
- ・詳しく話す。

〈はじめ〉何について話すのかを聞く。

- 町を探検して見つけたことを、聞く人に伝わるように話す仕方を学習します。
- 組み立てを考えて話します。

4年 ごんぎつね

□ 36~58



栗や松茸をくれていたのがごんでもう気に気がつく。兵十の気持ちも考えてみよう。

- ・火縄銃で撃たれて初めて、兵十に気持ちが通じる。
- ・いたずらの償いに觸を投げ込み、栗や松茸を運ぶ。
- ・いたずらを後悔する。
- ・償いの気持ちを気づいてもらえない。

●人間(兵十)にいたずらの償いをする小きつね(じいん)の物語です。●じんの気持ちの変化を読み取ります。●ちょっとしたあらがしだくなる。

（中）

分かったことや聞いたことを、詳しく話す。

（おわり）自分が思つたことを言う。

6年 プレゼンテーションをしよう □ 176~181

写真やグラフにすると分かりやすい情報もあるね。



- ・説得力のある話し方や資料の見せ方を工夫する。
- ・効果的な事例や資料を選ぶ。
- ・発表の持ち時間を意識して、提示する情報を選んで構成を考える。

●地域で行われているさまざまな取り組みを参考にして、学校生活をよりよくするためのプレゼンテーションをします。

●グループごとに取り上げることを決め、資料を使って提案します。

1年 いろいろなふね

□ 43~51

●いろいろな船の役目・つくりについて書かれた説明文です。

●客船、フェリーボート、漁船、消防艇についてカードにまとめます。

- ①役目・何をするための船か。
- ②つくり…何があるか。

何を積んでいるか。
どんなことができるか。

3年 モチモチの木

□ 38~56

●峠のりょうし小屋にじさまと一人でくらす、五歳の豆太の物語です。

1 おくびょうな豆太は、じさまなしで夜中に一人でせっちゃんに行けない。

2 今は、小屋のすぐ前のモチモチの木に、勇氣のある子どもしか見ること

ができる灯がともるといつ。

「……それじゃあおうは、とってもだめだ……。」

3 その真夜中に、じさまが腹を押さえて苦しみだした……。

豆太は、一人でお医者様を呼びに行けるかな。



●大造じいさんと、残雪といつ一羽のがんの、戦いと交流の物語です。

●場面の様子を考えながら、人物の性格や心情の変化に注意して読みます。

- 1 いつも残雪にやられて、一羽のがんも手に入らない大造じいさん。
- 2 うなぎばかりをしかける。

●小屋の中にかくれる。

- 1 おとりを使う。
- 2 おとりを助けようとする残雪に感動する大造じいさん。

●残雪を放してやり、堂々と戦おうと呼びかける。

